

お知らせ

記者発表資料 配布日	平成30年 3月 7日
---------------	-------------

■同時発表先：岡山県政記者クラブ
倉敷市記者クラブ

柳井原の貯水池を豊かな自然と人々であふれる河川に！！ ～『第3回小田川柳井原地区川づくり検討協議会』を開催します～

国土交通省中国地方整備局では、高梁川水系直轄河川改修事業（小田川合流点付替え）を平成26年度に事業化しており、平成30年度に仮設工事着手、その後おおむね10年での完成を目指し、鋭意検討を進めております。

このうち、新たに河道が創出される区間（現柳井原貯水池）において、**多自然川づくりに関する検討を行うため**、「第3回小田川柳井原地区川づくり検討協議会」を開催します。

「現小田川環境を延伸し、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境を創出」、「河川利用を考慮した空間を創出」を目標に、平成29年8月1日に第2回協議会を行いました。

今回、第3回協議会では、これまでの協議会で頂いた助言をもとに、具体的な河道形状や整備の方針について提案を行い、有識者からの助言を頂きます。

キーワード： 小田川合流点付替え、多自然川づくり、有識者からの助言

記

日時：平成30年 3月16日（金） 14：00～16：00

場所：岡山河川事務所 2階 会議室（岡山市北区鹿田町2-4-36）

議題：別紙の通り

※第1回協議会の議事内容については、事務所HPに掲載しております。
(<http://www.cgr.mlit.go.jp/okakawa/kouhou/seibi/odagawa/frame/kyougikai.html>)

※協議会は公開（一部非公開有）ですが、傍聴者席の座席数に限りがあり先着順となりますのでご了承ください。会場へは、30分前より入場できます。

※駐車スペースはございますが、先着順となりますのでご了承ください。

※協議会中の報道等撮影は、会議進行の都合上、別紙 議事次第の「4. 委員長挨拶」までとさせていただきます。

※防災体制等により中止になる場合は、当日8時までに事務所HP
(<http://www.cgr.mlit.go.jp/okakawa/>)にてお知らせします。

<問合せ先>

国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所

TEL (086) 223-5186 (計画課直通)

FAX (086) 232-4195

【担当】

副所長（技術）

しもやま しげる
下山 茂

計画課長

はまもと けんたろう
濱本 賢太郎

第3回小田川柳井原地区川づくり検討協議会

日時：平成30年 3月16日（金）

14:00～16:00

場所：岡山河川事務所 2階会議室

議事次第（案）

1. 開会
2. 事務所長挨拶
3. 委員紹介、規約説明
4. 委員長挨拶
5. 議事
 - ①第2回協議会の概要
 - ②小田川の流水環境整備について
 - 1)みお筋、瀬淵の設定
 - 2)河道の維持管理
 - ③多自然川づくりの実施内容
 - 1)多様な動植物の生息環境の保全
 - 2)アサザの生育環境の保全
 - 3)一年生草本の生育適地の整備
 - 4)本支川の連続性
 - 5)河川利用
6. 質疑応答（全体を通じたの質疑）
7. 川づくり計画のとりまとめについて

8. 議事（非公開）
 - ③多自然川づくりの実施内容
 - 6)貴重動植物への対応
9. 閉会

公開にて実施します

貴重動植物保護の観点より
非公開にて実施予定です

多自然川づくりとは

「多自然川づくり」とは、

- ・ **河川全体の自然の営み**を視野に入れる。
- ・ **地域の暮らしや歴史・文化との調和**にも配慮する。
- ・ **河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境**及び**多様な河川景観**を保全・創出するために河川管理を行う。

「実施にあたっての主なポイント」は、

- ・ 可能な限り**自然の特性やメカニズムを活用**する。
- ・ **その川の川らしさ**を自然環境、景観、歴史・文化等の観点から把握する。
- ・ その川らしさができる限り保全・創出されるよう努め、**事前・事後調査及び順応的管理を十分に実施**する。

【多自然川づくりについて -国土交通省水管理・国土保全局HPより抜粋-】

小田川合流点付替え事業における多自然川づくり

「小田川合流点付替え事業」により新たに創出される河道において、多自然川づくりを実施するために学識経験者から助言を頂く場として

「小田川柳井原地区川づくり検討協議会」を設置。

協議会 構成委員

専門分野	氏名(敬称略)	所属・役職
昆虫・環境学習	奥島 雄一	倉敷市立自然史博物館 学芸員
河川生態	萱場 祐一	国立研究開発法人土木研究所 自然共生研究センター長
河川利用	内藤 智	柳井原小田川放流対策協議会 委員長 (地域代表)
魚 類	中田 和義	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 准教授
植 物	波田 善夫	岡山理科大学 教授
水 産	藤井 義弘	岡山県農林水産総合センター 水産研究所長
河川工学	前野 詩朗	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授

※五十音順

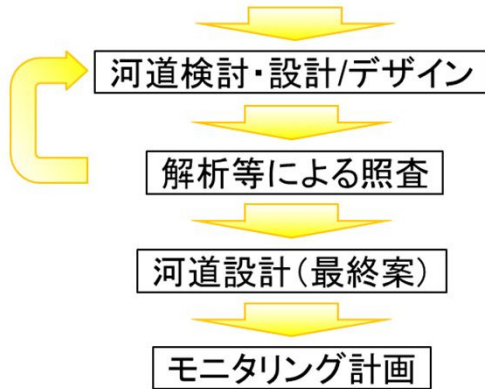
目標と主な検討項目

【目標】 新たに創出する付替河道において、現小田川の環境を延伸し、多様な動植物の生息・生育、繁殖環境、また河川利用を考慮した空間を創出する。

主な検討項目
1. 平水時の流水環境整備(瀬淵、みお筋、ワンドの創出)
2. 高梁川と小田川の環境バランス、連続性の確保
3. アサザの生育環境の保全
4. ホソバイスタデ等の一年生草本の生育適地の整備
5. 在来タナゴ類の生息、繁殖環境の創出
6. 河川利用等の観点から親水性への配慮

検討の流れ

検討項目の抽出・目標設定・境界条件設定



第1回協議会

- 具体的な検討方針・条件等の提示
 - ・検討項目抽出の妥当性
 - ・対象種の生息、生育等の環境条件
 - ・検討実施方針の妥当性
- 具体的な対応策(案)の提示
 - ・概略検討結果の妥当性

第2回協議会

- 具体的な対応策の提示
 - ・詳細検討結果の妥当性

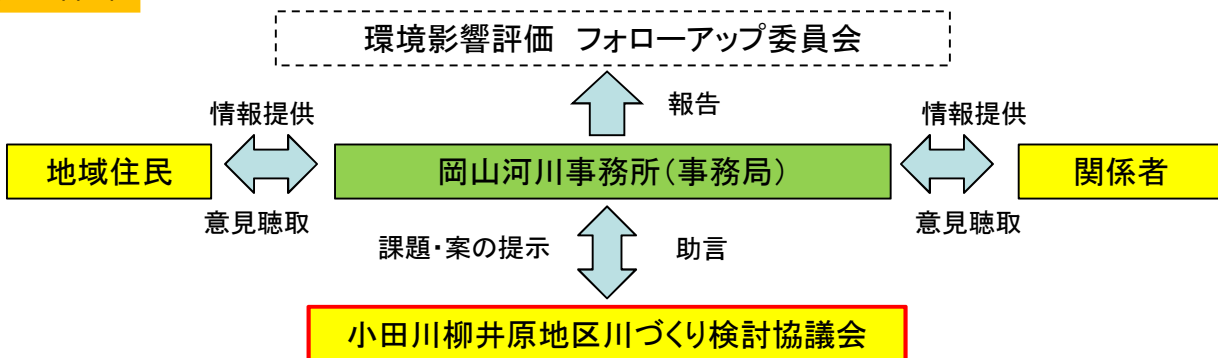
第3回協議会

- 具体的な対応策の提示
 - ・詳細検討結果の妥当性

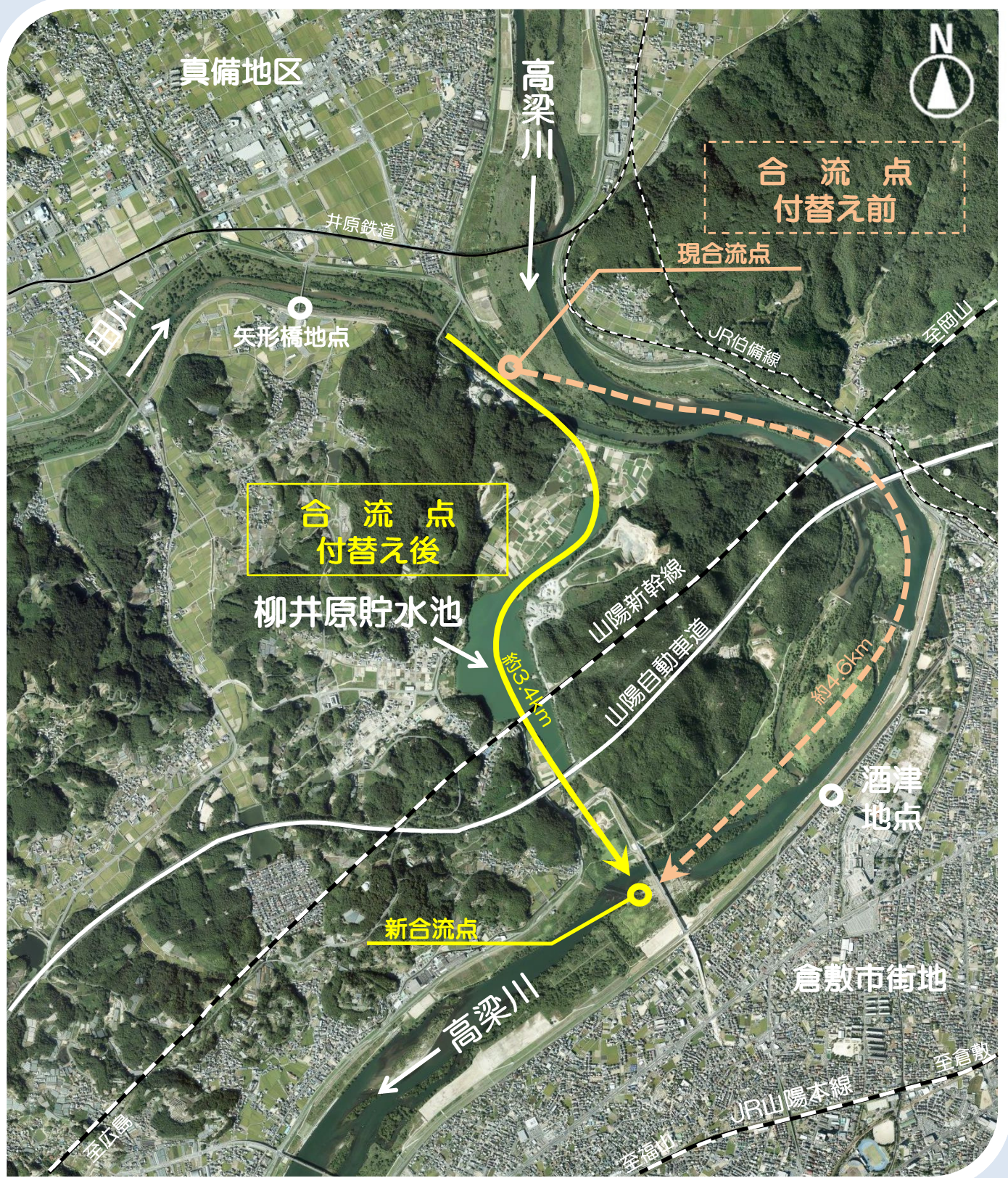
第4回協議会

- モニタリング計画の提示
 - ・評価項目・方法・頻度

検討の体系



高梁川・小田川の沿川を洪水から守る 「小田川合流点付替え事業」

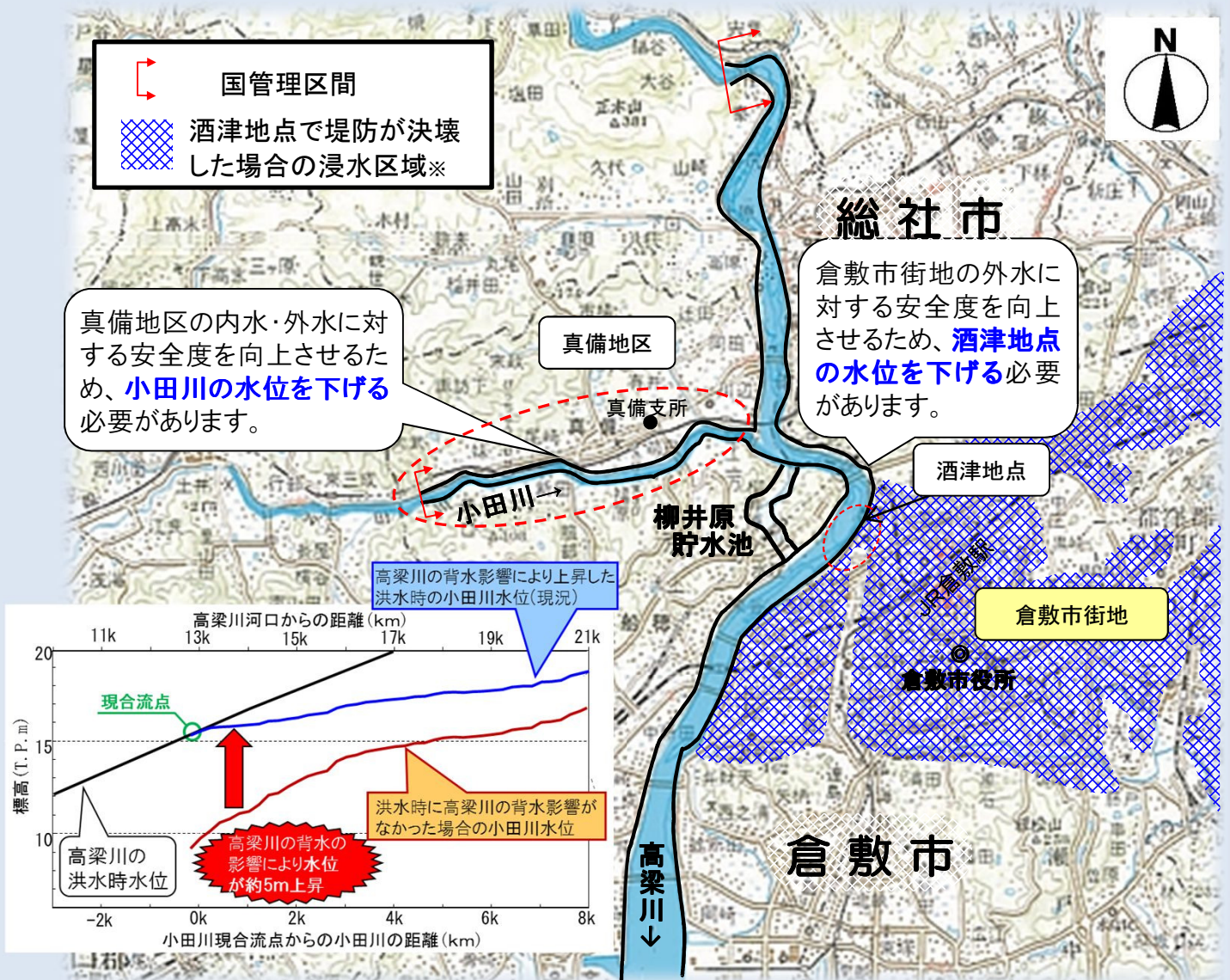


◎小田川合流点付替え事業の必要性

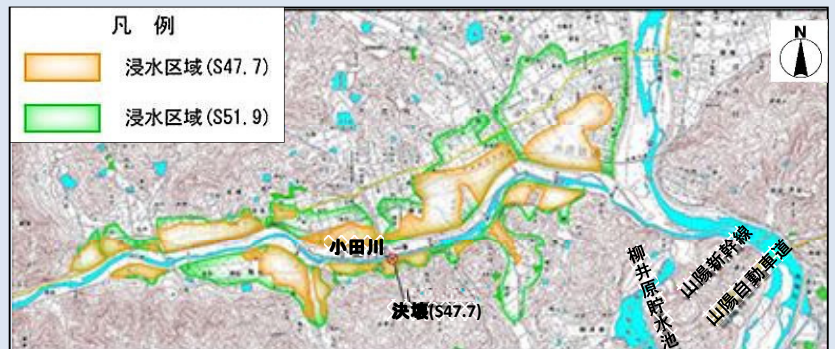
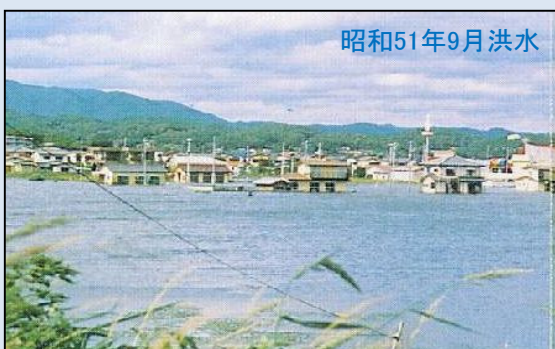
参考資料2

現在の小田川は、洪水時に高梁川の水が小田川に回り込み、小田川の流れが阻害され、水位が高くなる特性（背水影響）を持っています。合流点付近に位置する**真備地区**では、洪水時に支川から河川への排水ができず、過去何度も内水被害を受けてきました。そのため、**小田川の水位を下げ、内水被害を防ぐ**必要があります。

また、流域で最も人口・資産が集積する**倉敷市街地**が背後に存在する**酒津地先**の安全度を向上させるため、**酒津地点の水位を下げる**必要があります。



※現時点において、計画規模の洪水が発生し、酒津地点の堤防が決壊した場合に想定される浸水区域を記載しています。詳しくは「国土交通省地点別浸水シミュレーション検索システム(浸水ナビ) <http://suiboumap.gsi.go.jp/faq.html>」を参照ください。



小田川の内水氾濫状況 (倉敷市真備地区)

◎小田川合流点付替え事業の概要

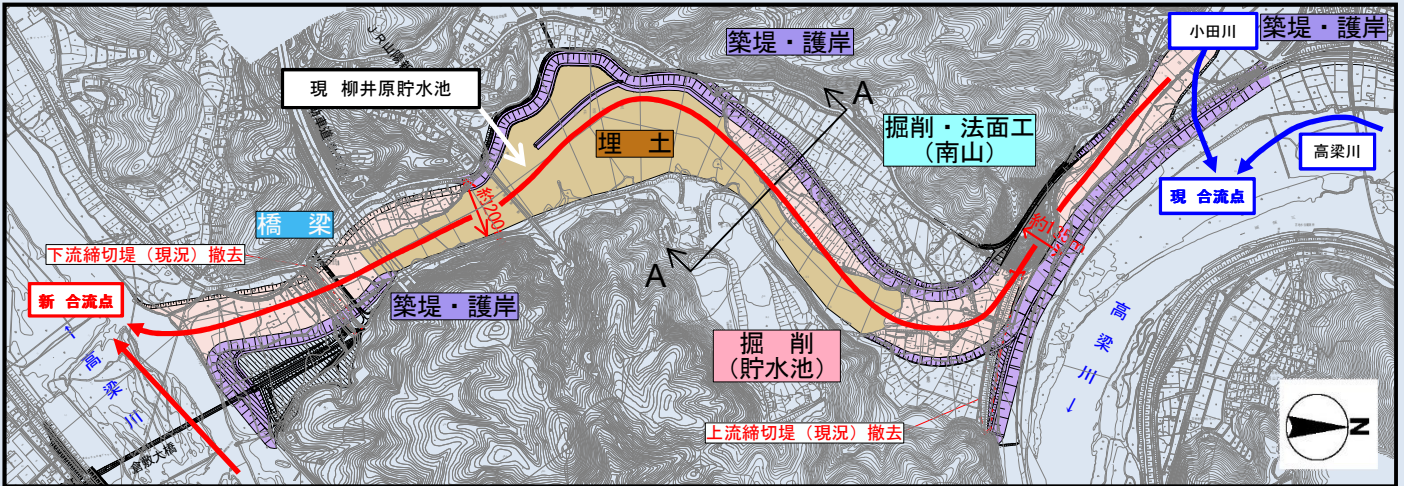
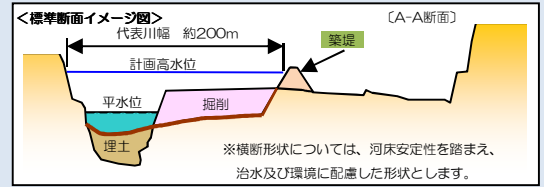
参考資料2

事業内容

現在の柳井原貯水池を活用し、高梁川との合流位置を約4.6km下流へ付替え、小田川の沿川地域及び倉敷市街地における治水安全度の向上を図ります。

主な工事内容

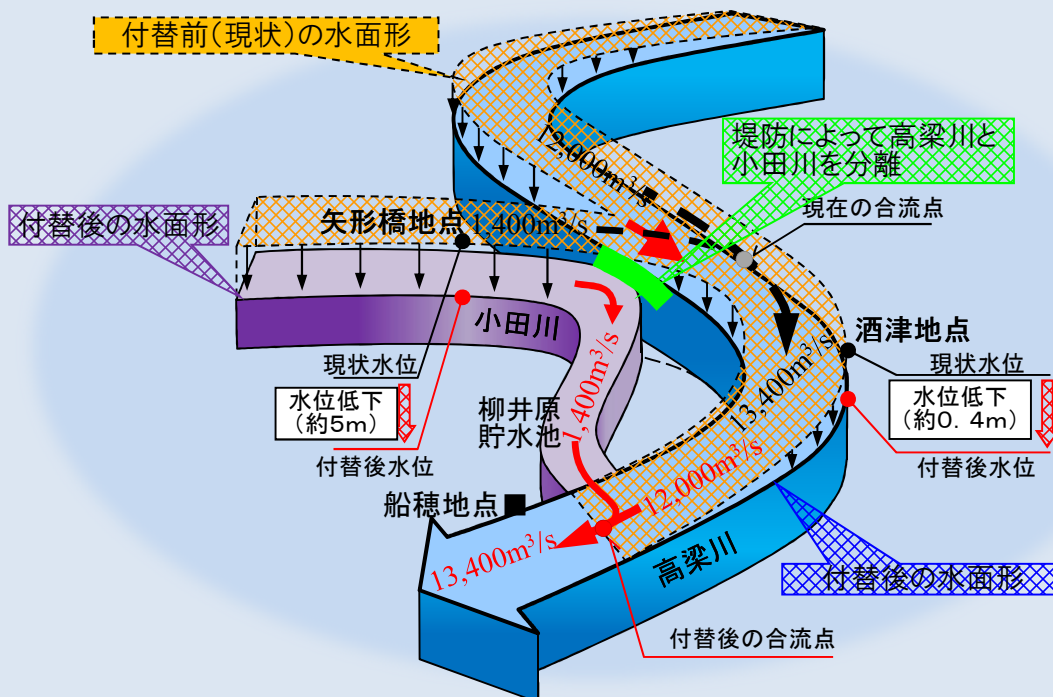
- 南山の掘削を行い、その土砂で築堤や貯水池内の埋土を行います。
- 現在の耕作地や上下流の締切堤を撤去し、小田川を付替えます。
- 下流の締切堤上を利用している道路を橋梁にします。



概略計画平面図(平成28年6月現在)

◎小田川合流点付替え事業の効果

- ◆洪水時に高梁川からの背水影響が減少し、**小田川の水位が現状より大幅に低下します。**
- ◆小田川を下流で合流させることにより、**酒津地点の洪水水位も低下し、倉敷市街地の氾濫危険度を低減できます。**



※図中の13,400m³/sは、高梁川本川の治水計画において目標としている流量です。また、12,000m³/s及び1,400m³/sは、その際に各河川に流れる流量です。